

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	コミュニティ居住小委員会	主 査 名：安武 敦子 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：清家 剛 主 査 名：清水 郁郎
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>初年度（2022 年度）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会メンバーによる先進事例の見学と意見交換を重ね、「コミュニティ居住」の成立条件や求められる計画技術、研究・実務の枠組みについて議論する。 ・ 2022 年度大会においてオーガナイズドセッションもしくは研究集会を実施し問題意識の共有と議論を深め、公開研究会（居住の安定をめぐる視点（4））を開催する。 <p>2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の小委員会活動のアーカイブ化、論点整理を進め、過去の公開研究会（居住の安定をめぐる視点（1）～（4））をふまえ、公開研究会のシリーズ化と出版の企画を進める。 ・ 2023 年度末までに、公開研究会（居住の安定をめぐる視点（5））の開催と、出版企画の方向性を定める。 	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：安武敦子（長崎大学） 幹事：新井信幸（東北工業大学）、藤岡泰寛（横浜国立大学） 委員：足立壮太（東京理科大学）、阿部俊彦（立命館大学）、川崎興太（福島大学）、後藤智香子（東京都市大学）、須沢 栗（東海大学）、田中 由乃（東京工業大学）、牧野唯（生活環境研究室）、真野洋介（東京工業大学）、森重幸子（京都美術工芸大学）、吉田哲（大坂工業大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	災害復興過程の持続的居住 WG 本ワーキンググループでは、復興に向かう過渡期における被災地での居住の多様な選択肢やリダンダンシー（冗長性）の確保を目的とした議論・提言を行う。	
2023 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開研究会に代って拡大委員会の形で4月28日に中川悠氏と鈴木千鶴氏を話題提供者に迎えて行った。自覚的に人をみつけて新しい接点をつくりネットワークを張り巡らせている実例を共有した。 2. 初(2022)年度に計画していた先進地の見学を8月31日に神奈川, 9月16日に京都で企画し, 神奈川は台風直撃により延期, 京都を実施した。 3. 小委員会(7月4日)で出版化に向けた書籍のイメージの共有を行った。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出版化についての方向性を共有したが, 具体化に至っていない。 2. 災害復興過程の持続的居住WGの合同調査ができなかった。 3. 2019年度より小委員会として専門的支援を行っている「よこはま団地再生コンソーシアム」についてはコロナ禍以降活動が止まっている。